



連携中枢都市圏構想の目的

背景:人口減少・少子高齢化の進行により行政需要は多様化・細分化していく一方、税収の減少や社会保障費の増大等による経営資源の制約によって、単独の自治体ではこれまでどおりの水準で行政サービスを提供していくことが難しくなっていきます。

意義:地域において相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成するものです。

国では地方自治法に基づく連携協約制度を創設し、地方交付税をはじめとする包括的な財政措置を講じた上で、連携中枢都市圏構想を推進しています。

求められる役割

- 1 圏域全体の経済成長のけん引
- 2 高次の都市機能の集積・強化
- 3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

第1章 ビジョンの策定に当たって

ビジョン策定の趣旨

本圏域は、歴史的にもつながりの深い青森市と東津軽郡4町村の平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村が令和元年12月に連携協約を締結し、令和2年3月に「青森圏域連携中枢圏ビジョン」を策定し、持続可能で発展する圏域を目指し取り組んできました、

住民の暮らしを支え、活力ある社会・経済を維持していくためには、青森圏域における共通する課題について、各自治体の強みを生かししながら、連携してまちづくりを進めていく必要があるため、中長期的な将来像と具体的取組を示す第2期ビジョンを策定するものです。

連携中枢都市圏の名称及び構成自治体

名称:青森圏域連携中枢都市圏
 構成市町村:青森市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村

取組期間

2025年度(令和7年度)から
 2029年度(令和11年度)までの5年間

圏域の資源

- 【平内町】単一漁協で日本一のホタテガイ養殖
- 【外ヶ浜町】津軽半島最北端に位置する龍飛埼
- 【青森市】紅葉時期の八甲田ロープウェイ
- 【蓬田村】蓬田トマト加工グループ加工品
- 【今別町】荒馬まっりの様子(毎年8月開催)

第2章 青森圏域の現状

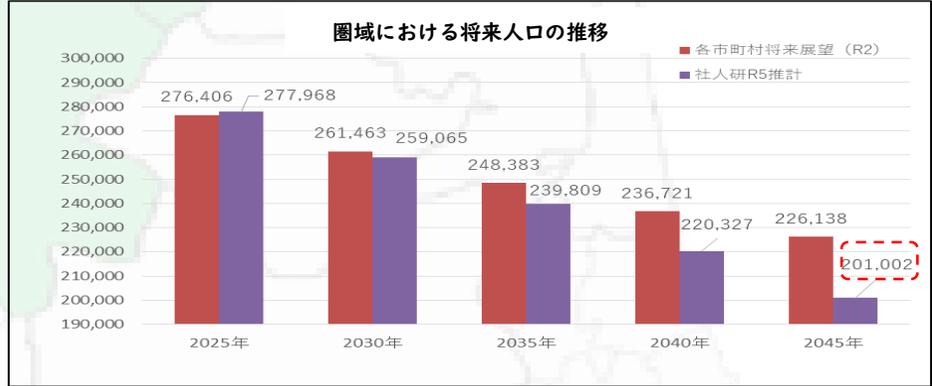
主な統計値の推移

人口	平成31年	304,529人	令和6年	283,305人
年少人口	平成27年	34,467人	令和2年	30,609人
高齢単身世帯	平成27年	12.3%	令和2年	13.8%
農業従事者数	平成27年	4,250人	令和2年	2,774人
漁業従事者数	平成25年	3,336人	平成30年	3,053人
観光客入込客数	平成30年	6,936千人	令和4年	5,170千人
大学等の学生数	平成30年	5,117人	令和5年	4,848人
青森駅の平均乗降者数	平成30年度	5,397人	令和4年度	4,699人

※出典は第2章「青森圏域の現状」参照

圏域が直面する課題

- 都市部への人口流出や少子化による人口減少、高齢化の進行
- 生産年齢人口の減少に伴う農林水産業をはじめとする、地域産業衰退の恐れ
- 学生や働き手の不足に伴う都市機能の低下



人口(令和6年)
283,305人

将来推計人口(令和27年)
201,002人

第1回ビジョン懇談会(7/25)で検討済